

VII. 教育研究等環境

1. 現状の説明

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

「金沢医科大学グランドデザイン 2010 第1次5カ年計画」で (1) ソフト面・ハード面において新しい時代に合った up-to-date の機能を備えたものを追及する。(2) 社会が求める良医を育成するための、良好な教育環境を整備する。(3) 老朽化に対する対策とともに、厳しくなった法的耐震基準をクリアする。を基本コンセプトとして方針を明確化している。

第1次5カ年計画では、①「アナトミーセンター」の建築、②「医学教育棟」の建築、「中央診療棟」の建築が計画されており、「アナトミーセンター」は2011(平成23)年2月末に竣工し、現在、医学教育棟の建設工事が進められている。第2次5カ年計画では、臨床研究棟、本部棟、基礎研究棟などの諸施設の老朽化、耐震強度の不適合など、懸案となる諸問題への対応が必要となり、それぞれの時点での up-to-date の機能を盛り込んだ医学教育施設、研究施設ならびに教職員が活躍できる施設設備の整備に取り組む予定となっている。(資料 7-1)

(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

本学の校地・校舎面積は、校地 167,891.5 m²、校舎 61,831.6 m²と大学設置基準上の必要校地面積および校舎面積(校地 30,326.8 m²、校舎 56,490.0 m²)を十分に充たしている。また、研究室、図書館、体育館、グラウンド、学生食堂等が同一敷地内に設置・整備され利用されている。

大規模な建て替え工事以外に、建物・設備の改修・補修等については年度計画により進められており、講義室の整備やトイレのウォシュレット化についても改修を進めている。

施設・設備の維持管理については施設課、設備課の担当者が日常的に点検確認を行っており、電気、空調、給排水、衛生、ボイラー、自動火災報知、消防設備等の各附属設備についても、各種法令に基づき定期点検等を実施している。

衛生面では、日常業務として水質検査、害虫駆除、日常および定期清掃などを構内施設において実施し、環境美化、衛生環境の確保に努めている。

機器・備品等の維持管理については、講義室等の教育用機器備品は講義室等を管理する教学課、看護学部事務課が管理しており、必要な備品等についても管理部署の予算で整備している。研究用機器備品等については、基本的には当該機器を使用している講座主任等が管理し、保守・修理等が必要な場合は、当該部署の予算により調達部門を通じて修理依頼を行い対応している。

学内研究者の研究支援のために整備された遺伝子解析関連機器や細胞解析関連機器、電子顕微鏡等の研究機器については、同一敷地内にある総合医学研究所の共同利用センター内で専任管理者のもと一元管理され、当該機器に係る保守・修理等についても予算措置がなされている。

(3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

金沢医科大学図書館は、昭和 47 年に開館した。以来、大学図書館、医学図書館として、学術情報、医学情報の収集に努め、現在、20 万冊に及ぶ図書館資料が、教育研究に供されている。開館当初から、開架式の閲覧方式を採用しており、利用者は、図書館資料を自分で自由に手にとって、めざす情報を探することができる。

開館時間は、平日 9:00-21:00、金曜 9:00-23:00、土曜 9:00-17:00 である。座席数は、189 席である。年々増加する製本雑誌を収納するため、大閲覧室に集密の電動書架を設置している。

2005（平成 17）年には、図書館情報システム(LIMEDIO)を導入し、目録管理、雑誌管理、相互貸借等の業務において、NII(国立情報学研究所)とリンクし、質の高い目録情報の維持や、他大学との ILL(Inter Library Loan)を可能にしている。2008（平成 20）年には、周辺機器として、図書自動貸出返却装置を設置した。2010（平成 22）年には、システムを Web 版にバージョンアップした。利用者は、イントラネットを経由し、OPAC(Online Public Access Catalogue)から、図書館資料の所蔵情報を検索したり、マイブラリにアクセスして ILL の依頼をすることが可能である。

学生の学習支援の一環として、学生用指定図書の制度がある。学生用指定図書は、毎年、各講座にアンケートをとり、リフレッシュしている(2000～3000 冊を維持)。学生が利用しやすいように、大閲覧室に学生用指定図書コーナーを設け、別置している。

現在、洋雑誌では、Science Direct、Springer、LWW、Wiley、Blackwell、Nature、Science、AMA、CINAHL with Full Text など、和雑誌では、メディカルオンラインなど、合わせて、5,000 タイトルを超える電子ジャーナルにアクセス可能である。

また、文献検索データベースとしては、国内の医学文献を探すための「医中誌 Web」、国内の看護学文献を探すための「最新看護索引 Web」、海外の看護学文献を探すための「CINAHL」、引用文献のリンクをたどって検索できる「Web of Science」が導入されている。

電子ジャーナルは、管理ソフトの A to Z により一元管理され、リンクリゾルバーの LinkSource により、データベースや OPAC とリンクされている。このことにより、利用者は、学内の端末で、目録検索から全文入手、文献検索から全文入手、所蔵のない場合は ILL 依頼などのプロセスをシームレスに行うことができる。

これら電子リソースの利用促進のため、毎年、テーマを変えて、データベース利用講習会を開催している。学生には、授業の一環として、OPAC 並びに「医中誌 Web」の使い方の説明を行い、啓蒙をはかっている。

金沢医科大学図書館は、特定非営利活動法人日本医学図書館協会に加盟しており、情報交換、館員研修、電子ジャーナルコンソーシアム、共同事業等において、全国の医学図書館と緊密な協力関係にある。(資料 7-2～7-7)

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

2009（平成 21）年 4 月に医学部の入学定員を 10 名増員し 110 名に変更した。これに伴い実習教育に必要な光学顕微鏡や解剖実習台などについて、必要台数を整備した。同年、医学教育の質的充実を図るため、病院本館内にクリニカル・シミュレーション・セ

ンターを開設し、各種のシミュレータの活用により、医療手技のトレーニングを実施した。2010（平成 22）年に医学部 6 学年の学生自習室を病院本館に移設し、新たにスチューデント・ドクター医局（SD 医局）として整備した。第 6 学年全員分の学習机やロッカー及び 9 室のグループ学習室も整備され、6 年間の知識の整理や国試対策の学習環境を整備した。

2003（平成 15）年 8 月に竣工した病院新館の各病棟には病室に隣接して臨床実習室を設置しており、学生用電子カルテシステムにより、症例の各種検査データや画像を読むことができ、症例の問題点を明らかにし、解決策を指導医とともに考察したり、議論を行う等、臨床実習の学習環境を整備した。

教員の研究費については各学部、研究科の配分基準に基づき配付されている。医学部の配分基準については、「研究推進会議」で検討され、教授会で審議したうえ実施されており、必要に応じ見直しのうえ改正が行われている。現行では、各講座に配付される研究費を教育研究費として、基礎配分額部分と傾斜配分額部分の 2 つの配分基準で各講座に配付している。基礎配分額については、各職階毎に配付金額を設定し、各講座の各職階の教員数により算出した金額に講座維持費、教育充実費を加えて配付している。また、傾斜配分額については、論文評価と外部資金申請・獲得評価をポイント化し獲得ポイントにより、基礎系部門は 1,000 千円～3,500 千円、臨床系部門は 500 千円～2,500 千円の間で 4 段階に分けて配付している。看護学部の配分基準は各職階毎に配付金額を設定しており、その金額を教育研究費として各教員に配布している。医学研究科の配分基準は大学院生の受入講座に対し、学生一人当たり 150 千円の研究費を交付することになっており、受入学生数×150 千円が講座に大学院研究費として配付される。

その他に学内の研究助成事業として、2003（平成 15）年度から「共同研究・奨励研究」制度、2010（平成 22）年度から「アシスト KAKEN」制度を実施して研究助成金を交付している。2011（平成 23）年度には本学の 40 周年を記念し、本学を代表する独創的な大型研究及び本学卒業生による研究に対し、研究期間 3 年間の特別助成「特別推進研究」、「特別奨励研究（A）（B）」を実施し、研究費を交付した。

科学研究費助成事業（科研費）等の外部の競争的資金の獲得についても積極的に奨励しており、科研費については採択件数・金額を向上させるため、研究推進会議の科研対策特別委員会により申請促進・内容点検を行っている。また、外部の競争的資金の公募情報についてもイントラネットや学内メールおよび掲示板で提供している。

教員研究室については医学部の基礎系が基礎研究棟、臨床系が臨床研究棟と病院本館、看護学部が看護学部棟、一般教育機構が本部棟と基礎研究棟に配置され、教員数に合致した概ね必要なスペースは確保されている。

教員の研究時間については少人数教育の拡大や学部教育の多様化とともに不足してきている。教員自らが研究時間を確保することに努めていくことは勿論のことであるが、委員会等で時間がとられ、本来の業務に支障が生じることをないよう配慮している。

（5）研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

ヒトを対象とする研究倫理に関しては、「臨床研究に関する倫理指針」、「疫学研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に沿って行うために、

金沢医科大学臨床研究に関する倫理規程、金沢医科大学疫学研究に関する規程、金沢医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規程を定めている。審査機関としては規程に準拠して設置する臨床研究倫理審査委員会、疫学研究倫理審査委員会、遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会の他、金沢医科大学における医薬品等臨床研究倫理委員会規程、金沢医科大学病院における病院研究倫理審査委員会規程に基づく委員会を設置している。これらに加え薬事法による治験については、病院に治験審査委員会を設置している。ヒトを対象とする臨床研究、疫学研究及び遺伝子解析研究については、倫理指針に沿って研究が行われることを前提とし、研究責任者は事前に実施計画を申請し、該当する倫理審査委員会の承認を受けて実施することができる。これらヒトを対象とした臨床研究の倫理審査を申請しようとする教員等には、治験・臨床研究の倫理に関する教育講習会の受講を義務付けている。当日受講できなかった教員等のために講習会はビデオ撮影を行い、イントラネットで公開しており、後日視聴できるようにしている。

2011（平成23）年度には、臨床研究において内容によって担当する委員会が違い申請者に混乱が生じていたこと、また、医学研究の申請についても相談および受入体制が不十分である等の懸案事項を解消するため、倫理審査申請窓口の一本化、委員会事務局の一元化を図り、医学研究に臨床コーディネータを配置するなど、研究者の利便性、負担軽減や事務局業務の適正化、効率化を図るとともに、倫理指針への対応も強化できる体制を整備した。（資料 7-8～7-12）

2. 点検・評価

① 効果が上がっている事項

校地・校舎の整備については、「金沢医科大学グランドデザイン 2010 第1次5カ年計画」で「アトミーセンター」、「医学教育棟」、「中央診療棟」の建設が計画され、「アトミーセンター」は2011（平成23）年2月末に竣工するなど、老朽化した建物の建て替えが計画に基づいて進んでいる。（資料 7-1）

研究倫理については、倫理審査申請窓口の一本化、委員会事務局の一元化により、研究者の利便性、負担軽減や事務局業務の適正化、効率化が図られた。

科研費については採択件数・金額を向上させるため、研究推進会議の科研対策特別委員会が中心になって申請促進・内容点検を行ったことにより、採択件数・金額とも増加傾向にある。

② 改善すべき事項

教育研究等を支援する環境や条件については、「金沢医科大学グランドデザイン 2010 第1次5カ年計画」やその後の「第2次5カ年計画」での施設設備の整備の中で、教育カリキュラムや研究内容の変化・改革に対応し、それぞれの時点での up-to-date の機能を盛り込んだ医学教育施設、研究施設の整備に取り組む必要がある。（資料 7-1）

看護学部の定員増に伴い、従前の講義室が手狭となっている。定員増の学年進行に対応し、基幹講義室の拡張・整備を行う必要がある。

図書館では閲覧席は充分確保されているが、学生の多様な学習スタイルに対処するスペースが不足している。

トイレのウォシュレット化については、随時対応をしているが、医学部低学年の基幹講義室が配置されている基礎研究棟（5階建）は未整備の状態であり、整備の必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

科研費については採択件数・金額とも増加傾向にあり、今後も外部の競争的資金の獲得を積極的に進めたい。

② 改善すべき事項

図書館では、製本雑誌配架スペースの飽和状態を解消するため、2010（平成22）年に、電子ジャーナル化により減った冊子体の雑誌の書架を整理し、空いたスペースに製本雑誌配架用の書架を設置し、あと数年は配架可能となったが、ここも満杯になった場合は、書架拡張により対処せざるを得ない状況である。

図書館情報システムは、利用者のニーズに対応するため、逐次バージョンアップをはかり、オープンアクセスの電子ジャーナルをOPACとリンクするなど、図書館情報システムを核とした情報サービスを展開していく必要がある。

4. 根拠資料

- 資料 7-1 金沢医科大学グランドデザイン 2010 第1次5カ年計画
- 資料 7-2 図書館の利用案内 2013/2014
- 資料 7-3 金沢医科大学概要 2012/2013 （既出 資料 1-1）
- 資料 7-4 金沢医科大学図書館規程
- 資料 7-5 金沢医科大学図書館運営委員会規程
- 資料 7-6 金沢医科大学図書館管理規程
- 資料 7-7 金沢医科大学図書館利用規程
- 資料 7-8 金沢医科大学臨床研究に関する倫理規程
- 資料 7-9 金沢医科大学疫学研究に関する倫理規程
- 資料 7-10 金沢医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程
- 資料 7-11 金沢医科大学における医薬品等臨床研究倫理審査委員会規程
- 資料 7-12 金沢医科大学病院における病院研究倫理審査委員会規程